

令和6年度 学校評価書(共通) 前期

校名 宇和島市立鶴島小学校

1 自己評価書

教育目標	当たり前前(の)ことを当たり前前(の)に行う児童の育成					
基本方針	一人一人が凡事徹底に努める					
本年度 重点目標	(1)確かな学力を育てる教育の推進 (2)豊かな心を育む教育の推進 (3)健やかな体を育む教育の推進					
評価項目	評価小項目	評価の観点	評価資料	評価	評価	
確かな学力の定着と向上	①	全国学力・学習状況調査及び市標準学力調査の活用	各調査の分析により成果と課題を把握するとともに、「身に付けさせたい力」の明確化を図り、組織的に推進することができた。 ・分析資料の作成 ・具体的な対策の実施		後期のみ	
	②	授業改善	主体的・対話的で深い学びの実現に向けて授業改善に努めた。 ・教師アンケート B ・保護者アンケート B ・児童生徒アンケート B		B	
			ねらいを明確にした分かる授業を行うとともに、学びの成果を実感させる振り返りを行った。 ・教師アンケート A ・児童生徒アンケート B		B	
			一人1台端末(iPad)やEILS(コンテンツバンク)の活用により、個別最適な学びを推進したり学習内容の定着を図ったりした。 ・教師アンケート A ・保護者アンケート B ・児童生徒アンケート B		B	
	③	家庭学習の充実	家庭との協働による主体的な学習習慣の確立に努めた。(予習・復習・振り返り等) ・教師アンケート A ・保護者アンケート C ・児童生徒アンケート B		B	
	④	読書活動の充実	読書に対する関心や意欲が高まるような取組や声掛けを積極的に行った。 ・教師アンケート B ・保護者アンケート D ・児童生徒アンケート B		C	
	⑤	ふるさと学習及びESDの推進	社会や地域の課題解決や活性化に向けた活動及び調べ学習等を通して、地域に対する誇り・愛着の醸成や、持続可能な社会を創造しようとする態度の育成に努めた。 ・教師アンケート A ・保護者アンケート C ・児童生徒アンケート B		B	
	<p>(成果と課題)</p> <p>○ロイロノートの共有機能やシンキングツールを積極的に活用してお互いの考えに触れたり、考えをまとめたりした。 ○個人の学びに対する興味や習熟度に合わせてEILSを利用して学習することができた。 ●自学ノートの活用はしているが、学習習慣の確立につながる「予習」「復習」「振り返り」等には至っていない。</p> <p>(改善策等)</p> <p>・教師のICTや教える力の技量を向上させるとともに、個に応じた課題や学習方法を検討・実施する。 ・より効果的な自学ノートの活用について研修を深める。 ・児童の実態や思考等に即した蔵書を充実させ、児童の読書意欲の向上を図る。</p>					
	評価項目	評価小項目	評価の観点	評価資料	評価	評価
	生徒指導の充実	①	規範意識の向上	規範意識を高めるための共通理解、共通実践に努め、児童生徒の行動規範が高まってきた。 ・教師アンケート B ・保護者アンケート B ・児童生徒アンケート B		B
②		児童生徒の健全育成	児童生徒に寄り添った対応を行うとともに、児童生徒同士の間関係づくりや仲間意識に支えられた集団づくりの推進に努めた。 ・教師アンケート A ・保護者アンケート B ・児童生徒アンケート A		A	
			不登校の未然防止や状況改善に向けて、校内体制の整備と早期対応に努め、チームとして取り組んだ。 ・教師アンケート A ・児童生徒アンケート B ・保護者アンケート B		B	
			いじめの未然防止、早期発見に努めるとともに、迅速な初期対応や組織的な対応等により、いじめの早期解決に努めた。 ・教師アンケート A ・児童生徒アンケート A ・保護者アンケート B		A	
③		関係機関との連携	スクールソーシャルワーカー、スクールカウンセラー、こども支援教室わかたけ等の積極的な活用を心掛けた。 ・教師アンケート C ・児童生徒アンケート A ・保護者アンケート B		B	
④		自己肯定感 等	自己肯定感を涵養する取組の工夫・改善を具体的にに行った(自分にはいいところがある)。 ・教師アンケート A ・児童アンケート B		B	
			自己有用感(人の役に立っている)や達成感を醸成する取組により、子どもの意識に変化が見られた。 ・教師アンケート A ・児童アンケート B			
<p>(成果と課題)</p> <p>○児童や保護者に寄り添った声掛けや指導を行うことで、不登校傾向にある児童の登校率が上がってきた。 ○教師が児童を褒めたり、認めたりする場を増やすことで、児童の自己肯定感、自己有用感は向上してきている。 ●小さな決まりや約束事を軽んじる児童が多い。</p> <p>(改善策等)</p> <p>・配慮が必要な児童や保護者のニーズに応えながら、ゆっくりと着実に前進していく。 ・引き続き、児童を日頃から「褒める」「認める」ことと、児童と一緒に心から笑うことを教師が率先して行う。 ・「当たり前」を「当たり前」と児童が捉えることができるよう、その場に応じた声掛けを根気強く行う。</p>						

<評価基準> A 目標を達成 B 8割以上達成 C 6割以上達成 D 6割未満

評価項目	評価小項目	評価の観点	評価資料	評価	評価
働き方改革	① ワーク・ライフ・バランス	時間外勤務が月80時間を超える教職員ゼロを目指すために、教職員の働き方の意識改革に努めた。	・教師アンケート	C	C
			・「出勤・退庁調査」の分析と活用	B	
	② 働きやすい環境づくり	「何でも相談し合える雰囲気づくり」「経験の浅い教職員を皆で支える雰囲気づくり」など、温かく働きやすい職場づくりに努めた。(枠を移動しました。)	・教師アンケート	A	A
			・教師アンケート	A	A
③ 他の教職員のサポート体制の充実	教職員同士が仕事を手助けしたり、スクールサポートスタッフ、地域人材などを積極的に活用したりして、職場の仕事のサポート体制が充実した。	・教師アンケート	A	A	
<p>(成果と課題)</p> <p>○学校長を中心に継続して心理的安全性の高い職場環境を保つことができた。</p> <p>○業務改善や超過勤務等に関する研修を行う中で、教師自身の意識改革の必要性に気付くことができた。</p> <p>●教師の過重労働、疲労感は大きく、業務改善は道半ばである。皆、自己の疲弊を隠しながら勤務している。</p> <p>(改善策等)</p> <p>・退庁時刻を意識して仕事に取り組むようにする。</p> <p>・引き続き研修を深め、教職員の意識改革に取り組む。</p> <p>・宇和島市や校長会で考えていただきたいこと等、積極的に具申する。</p>					
評価項目	評価小項目	評価の観点	評価資料	評価	評価
地域との連携	① 学校運営協議会の活性化	全教職員に対して、学校運営協議会の役割・目的の周知徹底に努めた(校内体制)。	・教師アンケート	A	B
			・教師アンケート	A	
			・保護者アンケート	B	
			・地域アンケート	B	
② 情報発信	家庭や地域に対して、教育活動に関する情報を、文書やホームページ等で積極的に発信した。	・教師アンケート	B	B	
		・保護者アンケート	B		
		・地域アンケート	A		
③ 来校・相談体制	来客・電話対応を丁寧に行い、保護者や地域の方々の声をしっかりと聞くことで、来校しやすく、相談しやすい体制・雰囲気づくりに努めた。	・教師アンケート	A	A	
		・保護者アンケート	A		
		・地域アンケート	A		
<p>(成果と課題)</p> <p>○学校運営協議会に対して学校が適切に情報を開示することで熟議することができた。</p> <p>○保護者等に寄り添って誠実な態度で電話対応したり、来客対応ができる教職員が多い。</p> <p>●ホームページ更新に関わる教員が増えたが、まだまだ多くの教員の協力が必要である。</p> <p>(改善策等)</p> <p>・全職員が毎日ホームページを閲覧することから始める。</p>					

<評価基準> A 目標を達成 B 8割以上達成 C 6割以上達成 D 6割未満